

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和7年7月17日(木)
文責: 情野 夏美

第二回アドバンス研修を終えて

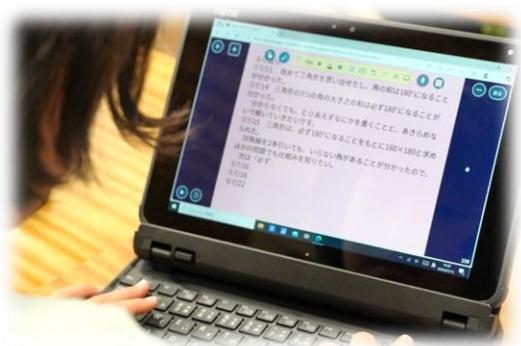
7月15日(火)に、4人のマイスターの先生方に5年1組の算数科「図形の角」の授業を見ていただき、授業や子どもたちの様子について話し合いを行いました。そこで、教えていただいたことや学んだことを報告します。日々の授業の参考になれば幸いです。

マイスターの共同研究のポイントである①子ども同士の対話がある授業、②ふり返りが生きる授業、③ICTが効果的に使える領域や単元を検証するを中心に行いました。参観いただいたのは、四角形の内角の和を求める授業です。

1、前時までのふり返りを生かす

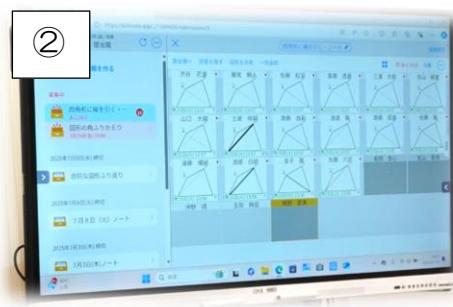
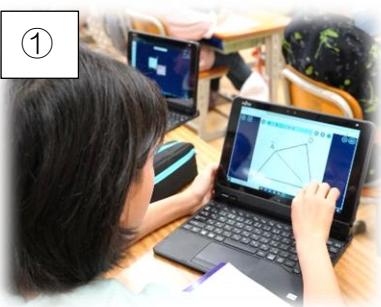
単元を通して、授業のふり返りをロイロノートの付箋機能に書き溜めています。学習の積み重ねが把握できていよいという意見をいただきました。また、授業の導入時に、前時までのふり返りを確認する（数名のふり返り）時間を設け、既習事項を生かして本時の課題に取り組めるようにしました。

授業の終末には、どのような方法で解いたかや本時で分かったこと、次に生かしたいことなどの視点を与えて、ふり返りを書かせました。本時では3つの視点を全て書かせましたが、多いのではないか、児童に選ばせてもよかったですとご意見いただきました。



2、ICTの活用

今回、ICTを活用した場面は、①四角形に線を引くこと（デジタル教科書からコピーした四角形）、②①やノートの写真（自分の考えを書いたもの）を提出し、共有すること、③共有された提出箱を見て、交流したい相手を選ぶこと、④タブレットを使って自分の考えを説明すること、⑤ふり返りを記入することでした。ロイロノートを使いこなしていることを褒めていただきました。1年生から4年生までのご指導や積み重ねが活きているなと感じています。



3、子ども同士の対話

交流する際、「考え方を聞いてみたい人やこの人の考え方なら分かりそうという人と話をてきて。」と言って、交流させてみました。児童は人を変え、自分の考え方を説明したり、どうしてその考えになったのかを質問したりと熱心に対話をしていました。

ある児童は、辺の長さを測り、式を立て、隣の児童と話をしていました。しかし、隣の児童は違っていることに気づき、別の児童の所へ行きます。残った児童は、共有されているノートを見て1人で考え始めました。そこへやってきた別の児童に、三角形が2つあるから $180 + 180 = 360$ だということを教えてもらい、考え方を改めます。さらに別の児童がやってきて、「どうしてその考えになったの？」と聞かれると、「今分かったばかりだから教えられない。」と言いつつも、自分の考え方を話したそうです。その児童のふり返りには、「四角形を三角形にしてたす。」と書いてありました。その児童なりに、友達との対話の中で求め方が分かったようです。（秋山先生が張り付いてみてくださっていました。）

またある児童は、四角形に対角線を2本引いて4つの三角形を作り、 $180 \times 4 = 720$ と答えを出していました。その考え方について、3か所で議論する姿が見られました。自分の考え方を話したから終わりではなく、誰かの困り感をみんなで解決していました。それぞれの話し合いの中で、余分な角の 360° を引けばいいことが出ていました。話を聞いていた全員が納得する所としない所があり、途中でストップをかけ、全体共有に移りました。もう少し交流の時間を長く取って、自分たちの力で解決まで導くことが出来ればよかったとご意見をいただきました。

交流時の教師の出としては、解決に導くことではなく、解決に向かうために、児童と児童をつなげることであると教えていただきました。一人で困っている児童を呼んで、分かっている子に説明してもらったり、同じ考え方の児童を把握し、ペアを組ませたりとファシリテーター的な存在であることが大事だそうです。

また、交流のさせ方も話題に挙がりました。自分の考えがまとまった児童から交流をさせる方法もあることを教えていただきました。待ちの時間が減り、少しでも学びが広がると思いました。そして、一人学びの段階から、提出箱を共有にしておくことで、低位の児童の助けになっていいということを教えていただきました。

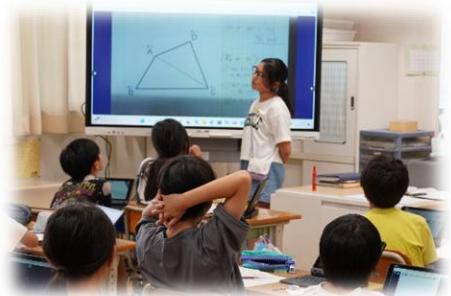
4、答えを確かめるための場

360° と 720° という答えが出てきたので、答えに確証を持たせるために、最後に分度器で測ってみることや、四角形を切って角度を合わせてみることなどがあつてもよかったですと教えていただきました。



5、発表のさせ方の工夫

児童に前に来てもらって、説明をしてもらいましたが、提出箱を画面配信にし、児童が手元で説明の画像を見られるようにする方法もあることを教えていただきました。配信中は、操作ができないので、より集中して話を聞くことができるのではないかと思います。



いつも字ばかりになってしまい、すみません。読んでいただき、ありがとうございました。